

単語の類別について理解する

文中でそれぞれの単語がどのような働きをしているか、また、どのような品詞であるかを理解することに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、修学旅行新聞の記事の写真にキャプションを付ける学習を提案します。自分の伝えたい内容に合ったキャプションを考えることを通して、単語の類別について理解することを狙いとします。

課題の見られた問題の概要と結果

A9 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

A9四 正答率 ① **63.1%** ② **34.7%** 「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する。

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕伝国 (1) イ (エ)

授業アイデア例

- ① 修学旅行新聞の記事の写真に付けた〈キャプション案〉A, Bについて、伝わり方や意味の違いを考える。
※ キャプション=写真や図版などに添えられた説明。

〔修学旅行新聞の記事の一部〕



からくり人形を見学

修学旅行新聞

1組

〈キャプション案〉
A 動く人形にびっくり
B 人形の動きにびっくり



Aは、動く人形があったことにびっくりした感じがするね。

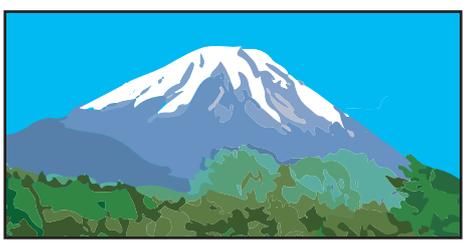
Bは、人形の動き方が予想していたものと違って、いたことにびっくりした感じを受けるね。



キャプションから受ける印象の違いは、「動く」という言葉の使い方にあるようですね。それぞれどのような働きをしているかについて、これまでに学習した品詞の知識を生かして考えてみましょう。

- ② 修学旅行新聞の他の記事の写真に、富士山が美しく感動したことが伝わるようなキャプションを付け、どのキャプションがよいかを話し合う。

〔修学旅行新聞の他の記事〕



車窓からの景色

() に感動

「美しい富士山に感動」はどうか。

「富士山の美しさに感動」とした方が、美しく感動したことがより伝わるのではないかな。

「感動」につながる言葉が「富士山」から「美しさ」になることで印象が変わるね。

「美しい」は形容詞だけど、語順を変えると「美しさ」という名詞になるね。



単語の語順などについて検討し、それぞれの単語がどのような働きをしているかについて考えることは、自分の伝えたいことをより効果的に表現することにつながります。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 交流する際に、キャプションから受ける印象とともに品詞名を確認させることで、単語の類別について理解を促すことができる。
- 「書くこと」の領域の指導の中で、実際に文章を書いて検討させることも効果的である。